

鎌ヶ谷市の“地域包括ケア”の現状は？

2025年を目途に鎌ヶ谷市でも“地域包括ケアシステム”構築のため動きだしています。“高齢者だけでなく、障がい者にも、子どもにも一人一人に寄り添う地域ケア”は石川先生がおっしゃるように「街づくり」そのものなのです。

協議体を地区社協がリードして6地区に立ち上げる予定。今は栗野・佐津間方面の北部と東武団地周辺の東部で市民が集まり市民自づから話し合っているとのこと。

医師・歯科医師・薬剤師と介護事業所など多職種の人々が集まり「研修部会」「広報部会」「認知症部会」の3部会を20人の世話人でつくり前回は10/3認知症の事例研修（90名参加）をしたとのこと。



地域医療構想調整会議（東葛南部）では習志野保健所・市川保健所・船橋保健所それぞれの領域ごとに地域の病床機能の調整、在宅医療の在り方を話し合っています。

鎌ヶ谷市の担当職員は「市民が現状把握し、自分たちで自分たちの地域のことを考え、住民自づから何が必要か？何をどのように実現するか？を考え“協議体”をきちんと地域から造り出していくことが大切です」と熱く語りました。

千葉県では在宅医療・訪問看護・介護の実態調査をH29年に実施しています（報告H30年6月）。例えば在宅医療について診療所からの回答で、“訪問診療に対応したい”が1973か所中729か所、難しいが820か所、無回答が424か所といった調査結果が出ています。

鎌ヶ谷市ではどうなのか？残念ながら医療・看護資源の数量把握が出来ていません。一日も早く実態を把握し、地域包括ケアのモデル地区を具体的に提案し、市民主体の街づくりをサポートしてほしいものです。